

#### e たいけん・まなび充実大作戦の実施

- ・小中学校全校においてアラカルト方式による体験活動を実施することができた。
- ・令和8年度は、引き続きアラカルト方式による体験活動の実施を支援するとともに、試行的に野外活動の実施支援に取り組む。

#### f 北九州市ラーケーション「kitaQまなぼっちゃ」の本格実施

- ・本制度に対する保護者アンケートにおいて、88%が制度継続を希望するという高い支持を得られたことを踏まえ、令和8年度より本格実施を開始した。
- ・本制度の導入により、欠席の心理的抵抗が緩和され、家族と過ごす時間の確保や体験的な学びにつながっているとの声が寄せられた。今後も周知を重ね、継続していく。

#### g 小規模校特別転入学制度の推進

- ・令和8年度の制度利用者の増加に向けて、本制度のPRの強化および児童の募集期間の拡大を図ったが、前年度比▲3名の推移に留まった。
- ・令和8年度は新たな取組みとして、学校のPR動画の作成およびtetoruによる保護者への直接周知等を行い、潜在ニーズの掘り起こしを図ることで、令和9年度の制度利用者については、前年度比5%増(+3名)を目標とする。

#### h KitaQまなVival事業の実施

- ・こどもたちが学びを「たのしむ」ことを通じて、「学びに向かう力」や「学ぶ意欲」を育むため、歌やダンスをはじめとした教育課程内外の活動の充実を図る。

### ②アントレプレナーシップ教育による人材育成

#### a 未来の起業家を育成

- ・「アントレプレナーシップ教育(未来へのスタートアップ育成事業)」については、産業経済局と連携し、実践校への依頼や調整を実施した。令和8年度は、さらに児童生徒の体験機会を広げるため、産業経済局と連携、協議の上、小中学校のバランスを考慮した実施校の選定や、新たな学校への公募方法の導入について検討を進める。
- ・企業の持つ教育資産を有効活用するため、「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、出前授業を実施するなど、児童生徒に多様なキャリア体験の場を提供した。出前授業等の活用状況や各学校のニーズを踏まえ、提供されている多様なプログラムが各校でより効果的に有効活用されるよう促すとともに、小学校応援団事務局等との間で情報共有を密にし、より円滑な連携体制の構築を図る。

### (3)こどもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる

#### ①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.23-24

#### ②特色ある教育環境の整備(市立高校)

##### a 特色ある教育環境の整備

- ・「とびだせICHIKO」事業による海外留学・国内高校留学・企業留学を通じて、生徒の英語力・国際的視野・コミュニケーション能力の向上等の成果があったため、令和8年度においても「産・官・学・民」と連携・協働しながら、「とびだせICHIKO」事業をさらに拡充し、より多様な学びの機会を提供していく。
- ・北九州市と連携協定を結んでいる台湾の高雄市を新たな留学先に加え、国際交流の幅をさらに広げていく。

### (4)社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

#### ①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.23-24

#### ②市民の学びを支える図書館の機能強化

##### a 読書活動の推進

- ・学校の廊下や空きスペースを利用して、こどもたちがいつでも本に親しめる「学校まるごと図書館」を全校で進めていく。
- ・学校図書館職員のリファレンスサービスの一環として、ブックリストのブラッシュアップを行うとともに、全校で読書に取り組む時間やビブリオバトル・ブックトーク等を通じた交流活動を促進し、学校教育における読書活動のさらなる充実を図る。
- ・学校の読書環境を充実させるために、「学校図書館魅力向上プロジェクト」を立ち上げ、市内5校を選定し、学校の実態に応じた特色ある読書環境の充実を図る。

##### b 数理の森ライブラリー

- ・各学校で、理工系に関する本を集めてコーナーをつくるなどの取組みが見られ、周知も行えた。
- ・今後は、好事例の発信を通じて、他の中学校や小学校への展開を図り、本取組みを一層推進する。

### c 北九州市立図書館基本計画の推進

- ・それぞれの取組みは好評だったが、より効果的なPR方法を引き続き検討する必要がある。
- ・令和8年度は、図書館が読書だけでなく、学び・チャレンジ・交流など多様なニーズをもつ多世代の市民にとってわくわくする居場所となるよう、以下のような様々な取組みを行う。また、図書館の取組みの周知のために効果的なPRを行い、立ち寄りたくなる図書館を目指していく。

#### <主な取組み>

- ・市民の学びと課題解決、チャレンジ支援のため、ビジネス支援に関する講座や郷土文化講演会などの開催。
- ・来館のきっかけとなるイベントの実施や、市民が過ごしやすい空間づくりに取り組むとともに、様々な媒体を通じた積極的な広報の実施。

### d 北九州市子ども読書プランの推進

- ・発達段階に応じた体験型イベントと地域連携により、読書を「学び・やすらぎ・楽しみ」につなげる。
- ・子ども図書館を多世代が集い、本に親しむ「こども・多世代エンターテインメント拠点」として機能させ、こどもの読書推進を図る。
- ・こどもたちが安心して心穏やかに過ごすことのできる居場所の創出に向け、くつろぎのある空間を提供する。

### e 中央図書館魅力アップ

- ・令和8年度は北九州市立図書館基本計画の「学び、やすらぎ、つながる」という基本理念を体現するため、外部アドバイザーや若者の意見等を参考に、来館者が気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごせる空間づくりを引き続き行う。

### f KitaQ「エンタメ図書館」大作戦

- ・図書館を静かな本の閲覧・貸出施設から、「知的好奇心を刺激し、感性を育むワクワクする居場所へ」進化させる。多様な世代が本を読まずとも交流できる開かれた居場所の創出とともに、新しい可能性にチャレンジする人々を支援する情報を提供していく。
- ・令和8年度は、読書週間に合わせ、読書普及と図書館利用を促す多彩な事業を展開。図書館及び勝山公園周辺において「学びと交流の文化の祭典 としょフェス！」として規模を拡大し、その一環として、著名人による講演会をはじめ、まち歩きイベントなど、多角的なイベントを実施する。

#### <主なイベント>

- ・10月24日(土)中央図書館バックヤードツアー ・10月31日(土)大ブックリサイクル
- ・11月14日(土)著名人講演会 ・11月21日(土)まち歩きイベント ・10月下旬～11月周遊スタンプラリー

## 参考指標

|                                                                  |      | R5(基準値)                               | R6(実績)                     | R7(実績)                     | R10(目標)                |
|------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------|
| 「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答したこどもの割合                                    |      | 小学生:95.7%<br>中学生:94.4%                | 小学生:96.2%<br>中学生:94.9%     | 小学生:96.0%<br>中学生:96.3%     | 小学生:95.0%<br>中学生:95.0% |
| 「挑戦したい気持ちはあるが、失敗が怖い(恥ずかしい)ので挑戦したくない」と回答したこどもの割合                  |      | 小学生:24.1%<br>中学生:23.1%                | ※1                         | ※1                         | 小学生:15%以下<br>中学生:15%以下 |
| 「5年前のこどもと比較して、困難にくじけず対応する力が劣っている」と回答した教職員の割合                     |      | 37.0%                                 | ※1                         | ※1                         | 20%以下                  |
| 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した学校の割合                             |      | 小学生:84.5%<br>中学生:98.2%<br>(R4 年度)     | ※2                         | 小学生:87.4%<br>中学生:96.9%     | 小学生:90%<br>中学生:100%    |
| 「学習を通じて、自分がしたいことが増えている」と回答したこどもの割合【市立高校】                         |      | 77.8%                                 | 73.6%                      | 82.2%                      | 85%                    |
| 図書館の利用者満足度 (※中学生以下)<br>①「読みたい本の有無」<br>②「調べ物に役立つか」<br>③「職員の知識・説明」 |      | ①93.2%<br>②93.4%<br>③95.7%<br>(R4 年度) | ①92.2%<br>②96.4%<br>③99.2% | ①92.1%<br>②95.4%<br>③99.2% | 各項目で<br>90%以上を<br>維持する |
| 「学校の授業時間以外に、普段、読書を全くしない」と回答したこどもの割合                              | 本市   | 小学生:23.8%<br>中学生:30.1%                | ※2                         | 小学生:31.8%<br>中学生:44.1%     | 全国平均値以下                |
|                                                                  | 全国平均 | 小学生:24.5%<br>中学生:36.8%                |                            | 小学生:29.2%<br>中学生:41.8%     |                        |

※1:「こどもまんなか教育プラン」策定のために実施した、全校アンケートでの調査項目。

令和6・7年度はアンケートを未実施。令和8年度中にアンケートを実施予定。

※2:「全国学力・学習状況調査」の調査項目から除外されたため、データなし。

## 《ミッション3》 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める

KPI:授業が自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思うことの割合

<R5実績値> 小学生:81.7% 中学生:73.6%

|             | R6                               | R7                                | R8                     | R9                     | R10                    |
|-------------|----------------------------------|-----------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 目標          | 小学生:82.4%<br>中学生:74.9%           | 小学生:83.1%<br>中学生:76.2%            | 小学生:84.0%<br>中学生:80.0% | 小学生:84.5%<br>中学生:80.0% | 小学生:85.0%<br>中学生:80.0% |
| 実績          | 小学生:83.1%<br>中学生:79.9%           | 小学生:81.6%<br>中学生:77.2%            | —                      | —                      | —                      |
| 評価<br>〔達成率〕 | 順調<br>〔小学生:100.8%<br>中学生:106.7%〕 | 概ね順調<br>〔小学生:98.2%<br>中学生:101.3%〕 | —                      | —                      | —                      |

## (1)確かな学力と健やかな体を育成する

### ①学力向上の推進

#### a 学びの転換推進校の指定

- ・学びの転換推進校として、小学校5校、中学校1校を指定し、以下のような取組みを実施した。推進校の教員からは、「今の学びに求められる内容について理解が深まった」などの意見が多く、本事業が授業改善につながった。

##### <具体的な取組み>

- ・学びの転換に向け、各学校の核となる管理職及び教務主任、研究主任を対象とした研修。
- ・授業を担当している教員と双方向型の研修を現場の先生とカジュアルなオンライン研修。
- ・推進校が互いに情報共有できる場の設定。
- ・最新情報、おすすめ情報(書籍や動画など)の共有や提供。
- ・先進地視察:宮園小学校(広島県)、武雄中学校(佐賀県)

#### b 補充学習の実施

- ・児童生徒の主体的な学習習慣の定着や基礎的・基本的な学力の定着を図るため、放課後等を活用して補充学習を実施する「ひまわり教室」を小学校74校、中学校47校で計画的に実施した。
- ・指定教科(算数・数学・英語)だけでなく宿題等の学習も見守り対象とし、こどもが主体的に臨める学習環境を広げた。

#### c 学習状況等の分析

- ・「北九州学びと育ちアンケート」により可視化された児童生徒の学習・生活課題に対し、指導の重点化を図った。特に、調査結果から分析したシートを活用し、各学校で職員研修に生かすなど、具体的な指導に落とし込んでいった。
- ・「学力向上分析プロジェクト」の一環として、学力調査の経年変化を精査し、授業の質を高めるためのワークショップ型研修を展開。単なるデータ分析に留まらず、教員一人ひとりが主体的・協働的に授業改善に取り組む土壌を醸成した。

## 取組みと成果(令和7年度)

### ②体力向上の推進

#### a 運動習慣の確立

・「北九っ子体力向上シート」を基軸とした 体力・運動習慣の可視化と、各校の課題に即して「1校1取組み」や「北九州好きっちゃプログラム」を活用し、こどもの運動機会の創出に努めた。全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、小学校男女および中学校男女の各項目で全国平均を上回る成果が得られた。単なる体力の向上に留まらず、運動に苦手意識を持つ児童生徒が「できた」を実感できる指導の工夫を重ねることで、運動への意欲と自己肯定感の向上を並行して実現した。

＜全国平均値を上回った種目数＞ 小学校男子:7種目/8種目 小学校女子:全種目  
中学校男子:6種目/9種目 中学校女子:8種目/9種目

### ③健康の保持

#### a 歯と口の健康づくり

・「学校における歯と口の健康づくり推進計画(令和4年3月)」において、目標に対する施策の柱、具体的な取組み、それを評価するための指標を設定し、取組みを進めた。

##### ＜主な取組み＞

- ・フッ化物洗口を全市立小学校で希望者を対象に実施。
- ・フッ化物塗布を特別支援学校小学部全学年で希望者を対象に実施。
- ・啓発チラシ・健口力アップ通信・ポスターの作成。
- ・福岡県歯科衛生士会による歯科保健指導を、希望する小学校2年生、5(6)年生(101校)に実施。

#### b 肥満・痩身傾向児の対策

・「肥満・痩身傾向児の割合」については、成長曲線・肥満度曲線を用いた発育の評価を行い、成長状態についての受診を勧奨した。また、全児童生徒を対象に「尿検査」を実施し、検査の結果、必要な児童生徒に対しては、「耐糖能精密検査」を実施した。それぞれの結果を市医師会と共有することで、専門的知見に基づく受診勧奨や対策の検討を行った。

## 取組みと成果(令和7年度)

### ④学校給食の質の向上

#### a おいしい給食大作戦

- ・市内の栄養士養成大学や料理人等で構成される「学校給食応援団」による専門的な助言やメニューに関する提案に加え、児童との給食交流等、食育に関する取組みを実施した。
- ・市内全ての市立小学校の調理場にスチームコンベクションオープンの設置が計画どおり完了し、全小中学校で「焼く」「蒸す」といった調理が可能となり、「照り焼きハンバーグ」や「いちごジャムの米粉ケーキ」をはじめとした、よりバリエーションに富んだ給食の提供が可能となった。

#### b 物価高騰対策

- ・給食に使用する食材の価格高騰が続く中、子育て世帯の負担軽減を図るため、給食食材の価格高騰分の経費について予算を計上し、引き続き給食費の保護者負担額を据え置いたまま、多様な食材を取り入れたバラエティ豊かで魅力ある給食を提供した。

#### c 学校給食献立レシピコンクールの開催

- ・児童生徒の意見を生かした「バラエティ豊かな魅力のあるおいしい献立の充実」のため、地産地消をテーマに食べたい献立レシピを募集した。また、令和7年度はレシピコンクール10年目の節目となることから、入賞者への表彰式を実施した。

＜応募数＞ 小学校の部:2,858品 中学校の部:3,159品 ※過去最大の応募数

#### 献立レシピコンクール



地場産食材  
たけのこ



＜小学生の部＞  
はるたけどん

令和7年度  
教育委員会賞

地場産食材  
たけのこ  
キャベツ



＜中学生の部＞  
キャベたけエネルギーチャージ丼

## 取組みと成果(令和7年度)

### ⑤小中一貫教育の推進

#### a 小中一貫教育校及びモデル校の認定

- ・令和7年度より、八幡小・中央中・皿倉小・尾倉中を小中一貫教育校に、6中学校区を小中一貫教育モデル校として、小中一貫教育を推進した。
- ・モデル校である東郷中学校および石峯中学校区による小中一貫教育実践発表会を実施。あわせて、「小中一貫で紡ぐ9年間のストーリー」と題した講師講話を行い、参加者の小中一貫教育に対する理解深化を図った。

#### b 活動プランの実施

- ・令和6年度に作成した「9年間の活動プラン」の実践と改定、「総合的な学習の時間等の全体計画の作成」を行い、全校の中学校区で小中一貫教育を推進することができた。

Mission3

## (2)不登校児童生徒の支援やインクルーシブ教育システムの実現、夜間中学の運営などを進める

### ①不登校・いじめ対策の強化

#### a 不登校対策

- ・関係課と不登校児童等ができる手立てについて協議し、実施報告内容をまとめ、「学びの相談リーフレット」を作成した。
- ・不登校児童生徒の居場所づくりの推進として、校内教育支援センター「ステップアップルーム」の設置促進に取り組んだ。

＜設置率＞ 小学校:36.5% 中学校:100%

- ・長期欠席・不登校対策の担当教員を対象とした「不登校対策リーダー研修」を実施し、学校現場での対応力強化に努めた。また、不登校の未然防止に向けた取組みの進め方について、各学校における共通理解を図った。
- ・小・中・特別支援学校における「心の健康観察」を実施した。スクールカウンセラーを各校配置し、オンライン相談等も実施した。
- ・小学校の部は週2回、中学校の部は週3回の日程で「未来へのとびらオンライン授業」を実施した。小学校の部では木曜日の授業を1時間追加し、年間授業時間数が32時間へと増加した。

＜オンライン授業登録者の好転した者の割合＞ 小学生:100% 中学生:96.6% ※前年度比 小学生+1.9% 中学生+0.2%

#### b いじめ対策

- ・「いじめ防止校内研修パッケージ(全7回)」を作成し、校内研修の充実を図った。
- ・児童生徒の意見を基に「ネットトラブルから自分を・仲間を守るための5カ条」を作成し、ネットいじめ未然防止に向けての周知・啓発を図った。
- ・「いじめの実態調査」をオンライン化し、学校と教育委員会のより迅速な情報共有を図った。
- ・会議や対応記録の参考様式を全学校が使用できるよう、教職員向けポータルサイト(せんせいチャンネル)に掲示した。
- ・いじめ重大事態について適切に調査を行い、調査報告書の提言を踏まえた再発防止の取組みを継続的に行った。また、いじめに伴うトラブルの早期解決を図る仲裁制度「ADRモデル事業」を試験的に導入し、重大事態の未然防止に努めた。  
(活用には至らなかったが6件提案)

## ②特別支援教育の推進

### a 特別支援教室の実施

- ・通常の学級に在籍する自閉症・情緒障害、発達障害などの障害のある児童生徒が通級指導教室設置校に通うことなく、在籍校において特別な指導を受けることができる「特別支援教室」を全ての小・中学校において実施した。

＜自校で通級による指導を受けている児童生徒数＞

781人（児童数：560人 生徒数：221人）※前年度比 児童数+33人 生徒数+11人

- ・主に初めて特別支援教室を担当する教員の指導の充実および専門性の向上を目的とし、指導主事が授業を参観し(25回)指導助言を行った。
- ・可能な限り教室環境を整えるべく、当初の計画通り2年間で11校(令和6年度：7校、令和7年度：4校)にエアコンを設置することができた。

### b 専門職の配置

- ・特別な支援を必要とする児童生徒に適切な指導・支援の充実を図るため、通常の学級や特別支援学級に特別支援教育学習支援員、特別支援教育介助員を配置した。
- ・特別支援教育学習支援員を増員した。（64人 ※前年度比+20人）
- ・特別支援学校と対象児童生徒が在籍する小・中学校に看護師を配置した。
- ・医療的ケア児の状況把握や看護師への助言や支援等を行い、医療的ケア児への支援体制の構築を図った。

＜医療的ケア学校コーディネーターの定期巡回及び学校訪問の回数＞

小学校：47回 中学校：21回 特別支援学校：36回 ※前年度比 小学校▲2回 特別支援学校+2回（中学校は前年度在籍者なし）

### c 就労支援の促進

- ・北九州中央高等学園に職業学科を新設した。
- ・就労支援コーディネーターが企業訪問を行い、各特別支援学校へ実習の受け入れや就労に関する情報提供を行った。
- ・「特別支援学校生徒雇用促進セミナー」と「清掃技能検定(上級検定)」を同日開催し、参加者に特別支援学校の専門的な取組みについて伝えるとともに、障害者雇用についての理解啓発を図った。

＜就労支援コーディネーターの訪問企業数＞

訪問企業数：434社 ※前年度比▲26社

新規訪問企業数：134社 ※前年度比▲29社

実習受入企業数：56社 ※前年度比+21社

就労受入企業数：19社 ※前年度比+5社

### ③学びの機会の確保

#### a 学びの多様化学校の開校準備

- ・令和9年4月開校予定の学びの多様化学校について、有識者会議における意見等を踏まえ、学校のコンセプトや学校生活の在り方、学習環境等の基本的な考え方を示した「北九州市立『学びの多様化学校』基本計画」を策定した。
- ・学校の設置場所である北九州市立教育センター改修工事について、基本設計及び実施設計を完了した。

### ④経済的な課題への対応

#### a 奨学資金制度の運営

- ・教育の機会均等を図るため、経済的な理由により大学・高等学校などへの修学が困難な者に対して、修学上必要な学資金の一部貸し付けを行った。

##### <貸付奨学生数>

|           |      |           |
|-----------|------|-----------|
| 大学 — 国公立： | 75人  | ※前年度比▲13人 |
| 私 立：      | 106人 | ※前年度比▲15人 |
| 高等専門学校：   | 0人   | ※前年度比±0人  |
| 高校 — 公 立： | 10人  | ※前年度比▲4人  |
| 私 立：      | 35人  | ※前年度比+3人  |

#### b 就学援助制度の運営

- ・経済的な理由により、市立小中学校及び県立中学校への就学が困難と認められる児童生徒の保護者に、学用品費などの就学上必要な経費の一部援助を行った。

##### <援助者数(援助率)>

|      |                |                   |
|------|----------------|-------------------|
| 小学校： | 6,346人(15.0%)  | ※前年度比▲315人(▲0.4%) |
| 中学校： | 4,077人(18.7%)  | ※前年度比▲133人(▲0.4%) |
| 合 計： | 10,423人(16.2%) | ※前年度比▲448人(▲0.4%) |

**(3)人権、ジェンダー平等、多様性の理解を深め、他者を尊重する態度を養う**

**①生命(いのち)の安全教育の推進**

ミッション1(2)①に記載 P.11

**②人権教育の推進**

ミッション1(2)②に記載 P.11

**③道徳教育の推進**

ミッション1(2)③に記載 P.11

**(4)グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成と国際理解教育の推進を図る**

**①外国語教育の推進**

**a 北九州市型外国語教育の実施**

- ・令和7年度より、「北九州市型外国語教育」を市内の小中学校で全面実施した。(特別支援学校は任意)
- ・北九州市型外国語教育研修など、新規6研修の追加に加え、拠点校であるリーディングスクールによる公開授業研究会(小学校4校、中学校3校)および成果報告会を実施した。
- ・指標に向けた分析として、英検ESG(小学校選択)、英検IBA(中学校全校)、GTEC(リーディングスクール中学校3校)で実施し、有識者による調査分析を行った。
- ・「AIの活用による英語教育強化事業」(文部科学省)の委嘱を中学校2校で受けた。年間を通じて、視察や分析を行い、採択団体との情報共有を行った。
- ・ALTの複数配置日、オンライン・対面英会話、夏休みオンラインイングリッシュタイム、イングリッシュフェスティバルなどの取組みを充実させた。

## 取組みと成果(令和7年度)

### ②文理の枠を超えた学び・最先端の理工系教育の推進

#### a スー1★GPの開催

- ・中学生が数学への興味を深め、数学に強い次世代人材を育成するため、第3回スー1★GPを開催した。

＜参加者数＞ 111名（39組） ※前年度比▲54名（▲18組）

#### b KitaQ Girls Tech

- ・未だ男性の分野というイメージが強い理工系分野において、理工系分野に興味をもち、将来、技術者や研究者を志す女子児童生徒等を増やしていくため、学校外で、キャリア情報の提供や理工系の楽しさを体験できる教室等を開催した。

＜開催イベント＞ わくわく☆Scienceバスツアー  
未来をうるおすWater Factoryツアー  
スターフライヤーで学ぶ！「空の理工学」講座



KitaQ Girls Tech

### ③本市の特色を活かした教育活動の推進

#### a SDGsの視点を踏まえた学習

- ・SDGs推進校23校における特色ある取組みや実践研究を継続するとともに、その成果を全市へ効果的に発信することにより、SDGsの視点を踏まえた教育のさらなる拡大・充実に努めた。
- ・学習指導要領に示されている「持続可能な社会を創る担い手」の育成やシビックプライドの醸成を図るため、SDGsの視点を踏まえた地域教材を引き続き活用し、各教科等における実践的な学習を展開した。
- ・小学校4年生の総合的な学習の時間において、市内の豊かな自然に直接触れる体験活動や、環境ミュージアム、エコタウン等の環境教育関連施設を有効に活用した「SDGs環境アクティブ・ラーニング」を実施した。

(5)ICTを日常的に活用し、リアルとデジタルの効果的な融合を進める

①ICTを活用した教育環境の整備

a 教員の指導力向上

- ・児童生徒端末の利活用を充実させることによって、こどもたちの主体的・対話的で深い学びを実現する「授業観の転換」を図り、さらなる教員の授業力向上を図るため、以下の取組みを実施した。

<具体的な取組み>

- ・端末活用推進校 — 小・中学校6校を指定 ※前年度比▲4校
- ・ICTアドバイザー教員養成 — 小・中・特別支援学校教員を18名を追加認定
- ・端末活用支援学校訪問 — 小・中学校へ約250件の訪問 ※前年度比+約100件
- ・文部科学省リーディングDXスクール — 八幡小・中央中が指定
- ・多様な研修機会の充実 — 延べ1,100名が参加 ※前年度比▲1400名  
(令和6年度は端末更新に伴う更新設備研修等を実施したため、令和7年度は、前年度比大幅減。)

Mission3

## (1)確かな学力と健やかな体を育成する

### ①学力向上の推進

#### a マナビット・リーディングスクール

- ・推進校以外に情報提供する場が限られていたため、横展開があまり進まなかった。
- ・令和8年度は、各学校の取組みについて、成果だけではなくプロセスも含めて共有し、他校が一から取り組む際の手引きとなるような、実効性の高い情報共有を目指し、横展開を促進する。
- ・「学びチャレンジリーディング事業」と「学びの転換推進事業」を統合し、次期学習指導要領の方向性を目指した「マナビット・リーディングスクール事業」として、令和8年度からスタートする。

#### b 補充学習の実施

- ・児童生徒に主体的な学習の仕方を身に付けさせ、学習習慣や基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。令和8年度は、新たに「実施計画書」「実施報告書」を作成し、学校主体の補充学習の取組みとして、学習支援員とベクトルをそろえ、児童生徒の個別最適な学びのさらなる充実を図る。
- ・事務連絡・学習管理のDX化を進める。年度末にはアンケートを実施し、児童生徒の自立的な学びの効果を客観的に検証する。

#### c 学習状況等の分析

- ・全国学力・学習状況調査の多角的な分析結果に基づき、具体的な授業改善策を共有するワークショップ研修を展開した。今後は、児童生徒が自ら問いを立て解決に挑む「探究的な学び」を軸に、他者との協働や主体的な参画を引き出す授業実践を深化させる。

#### d AI型学習アプリの導入

- ・児童生徒の学習履歴(スタディログ)をAIが分析し、個々の「つまずき」に応じた問題を提示するAI型学習アプリを令和8年7月から全校に導入する。さかのぼり学習等による成功体験で「学習習慣(量)」の定着を図り、弱点へのピンポイント指導で「学習の質の向上」を実現。デジタルの強みを活かして基礎学力を定着させ、「自律的な学習者」の育成を推進する。

### ②体力向上の推進

#### a 運動習慣の確立

- ・体力の向上に関しては、小・中学校男女で、体力合計点で全国平均を上回っており、取組みの成果が表れた。
- ・一週間の運動時間の平均について中学校女子において全国平均を下回ったため、継続して「楽しい体育の授業の実践」に取り組んでいくとともに、課題である「運動習慣の形成」「生活習慣の改善」に向けた取組みを推進する。

### ③健康の保持

#### a 歯と口の健康づくり

- ・「学校における歯と口の健康づくり推進計画」の目標である、むし歯や歯肉炎のない児童生徒の増加、歯科医師等の専門職及び家庭、学校との連携強化について、望ましい生活習慣の形成、歯科受診の促進、フッ化物によるむし歯予防の普及啓発強化等を施策の柱として取組みを進める。
- ・小・中学校で途切れない歯と口の健康づくりの取組みを推進するため、「第二期 学校における歯と口の健康づくり推進計画」を策定する。

#### b 肥満・痩身傾向児の対策

- ・発育の評価や尿検査等により肥満・痩身に伴う健康リスクを早期に把握し、医師会と連携した受診勧奨や事後指導の強化により、将来の重症化を防止する。

### ④学校給食の質の向上

#### a おいしい給食大作戦

- ・令和7年度も「学校給食応援団」からの専門的な助言やメニューに関する提案に加え、児童との給食交流等を実施することで、さらなる魅力向上と食育の充実を図ることができた。引き続き、学校給食を「生きた教材」として活用し、学校における食育をさらに推進する。
- ・また、令和8年度は保護者や市民に対し、試食会等の機会を通じて、学校給食の意義や目的の周知に取り組む。

#### b 物価高騰対策

- ・令和7年度は給食食材の価格高騰分を公費負担することにより、給食の質を確保するとともに、子育て世帯の負担軽減を図ることができた。令和8年度は、給食の質を確保しつつ、小学校及び特別支援学校小学部については、国の学校給食負担軽減交付金を活用して、基準額を超える部分を市が支援することで、保護者負担を無償とする。中学校及び特別支援学校(中学部・高等部)については、物価高による食材費上昇分を市が支援することで、保護者負担額を据えおく。

#### c 多彩な献立の提供

- ・児童生徒の意見を生かした「バラエティ豊かな魅力のあるおいしい献立の充実」のため、地産地消をテーマに食べたい献立レシピを募集するとともに、食育を深める機会を設け、地域の農産物や食文化への理解を一層高める。

## ⑤小中一貫教育の推進

### a 小中一貫教育校及びモデル校の認定

- ・小中一貫教育リーディング校区を対象としたアンケート結果を分析すると、児童の肯定的回答の割合の上昇から、小中ギャップの緩和や自己肯定感の高まりが認められた。
- ・9年間の活動プランや総合的な学習の時間等の全体計画の作成を通して、管理職や小中一貫教育担当者のマインドセットは進んでいる一方で、実践を担うその他の教職員への意識の浸透が課題である。このため、これまで管理職の悉皆研修として実施してきた小中一貫教育実践発表会について、対象者や実施方法を見直し、一般教職員が主体的に参加できる形へと改善する。
- ・小中一貫教育校及びモデル校における好事例の積極的な発信を通して、小中一貫教育の目的や意義の理解促進を図る。

### b 活動プランの実施

- ・令和7年度に各中学校区で作成した総合的な学習の時間等の全体計画を基に、各教科等の9年間のカリキュラムの作成を進める。
- また、各学校の特色や強みを生かしながら、9年間を見通した系統的・連続的な教育課程を編成し、小中一貫教育の一層の推進を図る。

## (2)不登校児童生徒の支援やインクルーシブ教育システムの実現、夜間中学の運営などを進める

### ①不登校・いじめ対策の強化

#### a 不登校対策

- ・小学校におけるステップアップルームの設置率を高めるため、今後、「不登校対策リーダー研修」の中で、ステップアップルームについての好事例の紹介を行う。加えて、教職員向けポータルサイト(せんせいチャンネル)等に掲載するなどし、ステップアップルームの必要性や重要性についての理解を幅広く周知し、設置促進を促す。
- ・「未来へのとびらオンライン教育支援室」については、開始時期を令和7年度よりも1か月程度早い4月中旬から開始するとともに、開始時刻も30分繰り下げ、9時30分から実施することで児童生徒が参加しやすくなるよう取り組む。
- ・オンライン授業登録者の好転率も高く、順調に進んでいる。

#### b いじめ対策

- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向け、状況把握や分析、関係機関との連携を通じて効果的に取組みを進めることができた。
- ・全小中学校より3名の児童生徒が参加する「ネットいじめ防止フォーラム」を開催し、いじめの未然防止に対する機運を高める。
- ・昨年度作成した「いじめ防止校内研修パッケージ」を追加で作成し、さらなる校内研修の充実を図る。
- ・「学校いじめ防止基本方針」の様式見直しを図り、教職員の共通理解が進むように努める。